

令和3年10月11日

「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」の国の重要文化的景観への選定について

本年6月18日に開催された文化庁文化審議会文化財分科会の答申を受け、「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」が国の重要文化的景観に、本日選定されました。

【文化財の名称等】

名 称	所在地	区 域	面 積
錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観	山口県 岩国市	山口県岩国市岩国一丁目、岩国五丁目、横山一丁目、横山二丁目及び横山三丁目の全域 同 岩国二丁目、岩国四丁目、川西一丁目、関戸一丁目、関戸及び多田の各一部 萬谷川、紅葉谷川、池ヶ迫川、下大内迫川及び大内迫川の全域 錦川及び大円寺川の一部	487.3ha

※参考 文化的景観とは、地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないものをいい、そのうち特に重要なものは、都道府県又は市町村の申出に基づき「重要文化的景観」として選定されます。

【重要文化的景観として評価された点】

錦川が隔てる土地に築かれた岩国城下町に由来する文化的景観である。川の特性を踏まえた都市づくりから特徴ある景観が生まれ、それが名所^{めいしよ}となって物見^{ものみ}の賑わいをもたらし、経済活動や文化活動の活力を支えるという、自然と都市と産業の連関性を示しており、独特であること。

【本重要文化的景観の特徴】

■川と向き合う都市の仕掛けと暮らし

- ・ 城山に城を構え、洲が広がる錦川に土手を築いて河道を定め、両岸に城下町を整備すると共に、浸水に備え、川と向き合う暮らしが今に受け継がれている。

■錦帯橋がつなぐ岩国城下町

- ・ 近世に始まる城下町の構造を基盤とし錦帯橋がつなぐ岩国城下町（横山・岩国地区）が一体性を有し、それぞれ異なる特性を受け継ぎながら暮らしや文化を育み続けている。

■描かれる風景と物見^{ものみ}の生業

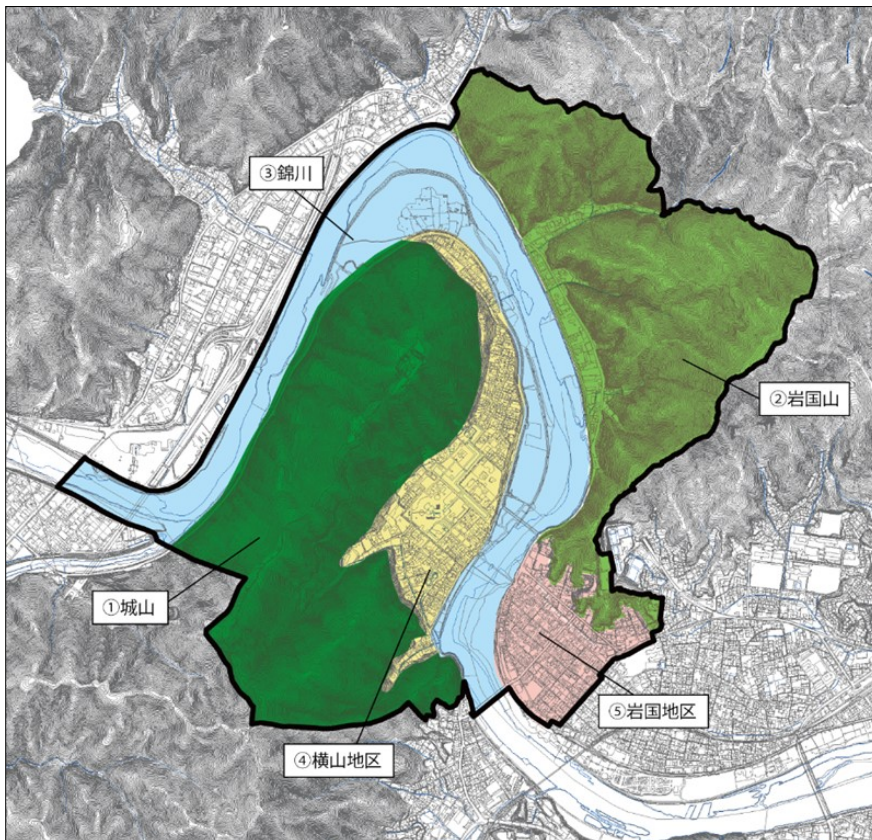
- ・ 錦帯橋を中心とする岩国城下町の風景が江戸時代から多くの往来を育み、物見^{ものみ}の生業や文化を生み出している。

【本重要文化的景観の本質的価値】

岩国城下町は、関ヶ原の戦いのすぐあと、軍事的緊張が残る周防と安芸の国境付近に、旧山陽道と瀬戸内海を見渡せる山を城山として拓かれた。藩主居館や諸役所、重臣の屋敷等が置かれる城山の麓と、中下級の家臣屋敷や町人町等が置かれる岩国山の麓を、錦川が大きく隔てることを特徴とする城下町である。城下町整備における護岸や水路、各時代の建造物等には、河川氾濫や内水氾濫に対する備えと共に、川と密接に関わる時代ごとの暮らしが表れる。これを代表する一つである錦帯橋は、河床が安定した平瀬を選び、流されない橋を目指し、延宝元年（1673）に当時の建築土木技術の粋を集めて架橋されたもので、登城路と大手虎口を直線的に繋ぐ。その独特な姿は周囲の自然と共に景勝をなし、名所となって、物見の賑わいをもたらしてきた。また、それが、経済活動や文化活動を支え、城下町の趣を伝える町並みに、木造三階建の旅館、時代の特徴を示す店舗、桜並木等の新たな景観を調和的に生み出してきた。人々の環境保全の努力も伴い、近世の刷物に描かれる風景が良好に引き継がれている。

本文化的景観は陸化の遅い瀬戸内地域における川の洲の中での都市の拓き方を見せるまちづくりの典型であり、川と向き合う都市の営みを伝えている。これを象徴した風景が城山、錦川、兩岸の城下町を構成する横山地区と岩国地区、錦帯橋とともに眺められる岩国山という5つの景観のまとまりが重なり合い一体性を成す風景である。この風景は都市としての発展の歴史を理解する上で欠くことのできないものであり、人の手が作り上げてきた「自然と都市の関係性」を伝える重要な文化的景観である。

【本重要文化的景観の範囲】



- ・ 「①城山」「②岩国山」「③錦川」「④横山地区」「⑤岩国地区」の5つの景観単位により構成される。
- ・ 錦川は、下流域において、城山を大きく逆S字に取り囲む蛇行部が始まる場所にあたり、旧山陽道における御庄の渡しがあったと推定される場所に架かる御庄大橋（上流側）から、岩国から西氏に通じる脇街道の渡しがあったと推定される場所に架かる臥龍橋（下流側）までの範囲



錦帯橋がつなぐ錦川兩岸の城下町（錦帯橋下流の吸江淵上側の視点場から）



横山唯一の町人地だった名残を伝える旭町の町並み（横山地区）



近世の「岩国七町」の一角、現在の本町通りの町並み（岩国地区）



錦帯橋袂の旅館や土産物屋などが並ぶ町並み(岩国地区 橋本町)

【問い合わせ】

岩国市錦帯橋課世界遺産推進班

担当：浜中、神崎、松江

電話：0827-29-5107